



甘泉
藏

庭訓往來松壽藏

誤字改正
平假名附

全



瀬上公可

大座人用

庭割往来

春好冲悦向貴方先復申在牛

富貴も福指取事甚く下威物

根不者以期日元之次可也申

之身は難作人子遊るる魚延引

似言尊志擔た苑小蝶持日記



川

中

隨月年意作午將家揚の養事
 の勝負を懸小津の會事廣園
 物遊二々九子吏の樂曲所遊日
 打續淫美為乃射の射者
 少く有法傍了思念其作本星走
 筆隨及高初本云次委亦能

腐笔也之難言

正月八日 在衛尉府藤原實

謹上石見年殿

改年者廣約仁少意の陳出石目
 出考骨在月他嘉事年事の身礼
 披見之毛毛陽之遊其殊殊亦其也

凍早脱落 爲虛物 忽被所 應往 受
 自他故 凍不 爲 應 向 主 者 有 虎
 竟 上 正 一 更 業 才 今 同 道 但 的 夫 養
 國 爲 亦 法 將 作 一 種 一 瓶 一 筆 之
 祿 俸 緒 了 在 物 主 幸 主 主 幸 先 死
 因 亦 致 行 法 之 業 事 物 主 之 爲 果

及二儀約而得之時 權之

正月六日 石見守中原

權上 源方 源門 尉 敬

面 錄 後 律 德 良 主 臣 如 山 何 尉 敬
 意 勢 式 併 滿 越 行 以 爲 悔 行
 醍 醐 雲 林 院 元 濃 書 家 自 感 處

嗚哉古野山穠園落市除其穢繁
 輕慈心山定車流地送光法式
 花下好古法家狂仁如雲似廣遠樂之
 花志靈物借債社合胡先有障之名
 是步の後因事の流方大道指矣
 解脫の復日沙同を空を事連致

宗西和致連去一五事の有沙誘引
 以事為體自之依同和器作彼鏡小
 竹筒事從是之隨身現儀紙亦致
 懷中死命心底之無難之紙上亦保
 胡泰會之次之具造

二月廿三日

彈心忠二善

謹上 大監物殿

敬自是今年より又産る敬及同
 心多生々如多松花下會事死
 身周厚好士死事待款管漢嘉
 齡延年事專勸進所相付本儀是
 後運産る元深叢樹樓城以因及

家并也若人の有有果肉身雨
 会事也同行時忠彦死と母也和事
 雅作人丸赤人古風未究長款
 控頭浪本打ち出當冠凡信梅也信款
 打紙落頼神請船司志及波管家以
 家々流文志為表紙信信頼産之

貨物に後援の心國事人後援の心
 加穀一を重強下指續日心等執業
 及向賤物以下事子未凍く富南陸定
 下及者前花柳一者用意を安んじたり
 恥耻長公私を危運を奪ふとほ
 二月廿一日
 監物愚源

澄々一彈心忠友道年
 祝喜子今も陸軍意ははば
 唐賀は日重事勢の途集舞昌是
 平有陸軍王とを重強の神妙と感也純
 都二相遠く桑生心神妙と感也純
 臣も侍も境は百極を安んじたり

角社... 相續... 後元... 植也... 志貴...
角社の... 相續... 後元... 植也... 志貴...

三月七日

富貴高元車

冲政所啟

彼... 因... 都... 吉...
彼... 因... 都... 吉...

中世城下又書事或流或失或
弘沙法入儀樣也引系也入作
事之定言又云負負教本為披進
中流進也流儀の正柄深柱長押棟
本板材本まわらぬ間為松丸と
飛の冠本扉將葉唐指敷板

飛之方立雲群本懸負幕保本并
鴨柄敷正雲本舞彼風困板能縁
南本儀程柱美子乃垣透塙は在垣
築垣按垣指障子厨子連子部障子
遠戸妻戸織戸又この欄字去板を是
繁天井被障子の骨棟通紙押柄葉及

檜雲ハスの心こころ 丈草さかの地ち 具ぐ象さうををれ津つ津つをを令おこな
 實み之の心こころ 之の芥かい 錯さく活かつ所ところ 再また造つく化か行かう金かね
 物もの之の用もち意い芳ほう機き之の指さし狼ろう突とつ之の造つく作さく作さく
 本もと之の察さつ活かつ理り賦ふ之の夜よ車くるま巧たくま巧たくま所ところ之の種たね
 長なが枝えだ之の種たね種たね種たね種たね種たね種たね種たね種たね
 之の年とし之の少せう樹じゆ本もと之の年とし梅うめ極ごく李り之の批ひ把へ香かう揚やう梅ばい

柿かき栗り利り之の推おし捺な極ごく指さし樹じゆ法ほう拙ちやく持もち子こ
 橋はし雲うん列れつ揚やう金かね棋き拙ちやく心こころ東とう及じやく之の種たね
 年とし程ほど之の少せう日じつ記き之の夜よ車くるま隆たかね下しも子こ
 細こま之の頌じゆ頌じゆ之の杖しやく之の店てん之の官くわん之の下しも野の
 同どう各かく之の末すえ落らく店てん之の責せき伏ふく之の後ご遺い奉ほう之の示し
 申まう入い之の可か披ひ之の瘡そう之の道みち之の母はは之の中ちゆう之の中ちゆう

三月十三日 左衛門忠橋

進上 玄蕃元敵 沖込船 とへんせり

久不替業丸の間に番番何條

筆子式沖込船無の店惣長電

初夕燦る百羅門東南業幕仁政

甚深功世業の功績重如く堪存性犯

手前紅物軒直守良氏酒造を有賣者

夜達する所の佳境を町領靜雅

次元玄米道意志成久先有村作市町

身の廻船者名津持村出浪浦の坊

野牧を奉定する島の乳中町を通じ

茨橋見世棚結布頼持葉菓より有

賣買の夜に松を引下す也下拓唐書
 張漢物所巧百番道本道英名洞細
 五得松深後續鐵骨骨白細救吉差燒推
 手粉物所練極所法去耐結所紙漢唐
 紙除空張表書廻船人水主棍取漢
 客海人本砂白粉燒擲る為骨子鐵高

古酒歌と云ふ大細之深草も是れ也
 空冷流所持徳木田染和子孫
 鬼像子及色は所縣少子傾城白物子
 遊女表好む事年醫所法湯所経所
 佛師招渡所所食飛相撰杖或律傳
 五層即夫の法も頭等頭等と云ふ也

他族の者動族者僧者多入紀曲心
經儒者の法のの道其に律教不道愛
性よしの聲聲聲の所一念多を
為指國勢沙法入法書草案を
書是之假名姓書抄字漢字は達者
宏才利者者者博法類題給仲人

為も大地招有層族一はは
私設毎本の法日とて行

卯月八日
中勢也殿

前末女心

彼下にも安詳見は平乾生度
口實も幾多古座店法は為人様

審察運送費浦津交まのひ交
 易会の松田行書其定役之事
 陳付保付迫よ其是事集役不
 可道通死元京所濱商徳念飛
 物事有交易其事産取定済尻力
 保大津坂中馬信馬持向河車信向

信海津後浦向兒回前有進
 七但假載運送次大令後津津
 貫原津物指後津津在交編為
 在寫信子室町向津津送送津津
 宗方力野利力人京町小聖事系
 保袋城取願仁知眉化婦津津行被

馬本身漢院胡為頭布東之雲西山
まのまのり げん げん とうどめ ひろあいのくろく ちん
 金外加賀給丹後後好多濃上京
かねのそこのやろ かく かねの だんご せんごう みのく ちんごうのん
 住徒は信濃者入澤油上野結之屋
ぢゆうりの ぢゆうぢゆうの ぢゆうの ぢゆうの ぢゆうの ぢゆうの ぢゆうの
 獸食花院後者停舞切智伴謙康
けうじくはにん けうじく けうじく けうじく けうじく けうじく けうじく
 僧道遠堂同撰給極極相極使の月
しんどうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん
 雲霞中夜約長門守與所入金位伴飛
うんげあちゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん じゆうのん

秋後地極院範因坊龍之乃對定經
あきのちのり けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん
 古仍村本宗規持後兼金河總後法
ふるにん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん
 酒新米必着被推幸府常守智賀良本
しゆうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん
 杉浦鶴美舞真法舞舞般或天國者為
さのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん
 子兼物也宗也慶六其為貴貴門
しん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん
 潤之勢也宗也保之住兼安之妻
じゆうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん けうのん

賤多不委業乃後人先法領豐饒
せんいず ともく きたりしと せんくろ ちかまこと せん ぶみまうゆ
 甲乙入と多青彦佐密風の書くる下
まへに せんごう あり ちかま あり せん げん せん あり ちかま あり せん あり
 已神妙也意方中下回云云高多先頂
いかに せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう
 催進沙中事方是也之信之
せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう
 正月十一日 仲勢也居不事
あんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう
 進上 末女心殿
あんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう せんごう

身之海内精著也何日投映
あし みの うみ うち せい ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく
 此由法も文字可耐之併別者金作
この ため ほう も ぶん じ かな ねが ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく ちやく
 関東上田大各々家ノ人ノ遺次ノ便
かんとう じやう だ たい かく かく かく かく かく かく かく かく
 下野もこの内ノ事同作折ノ事
しも しの も この うち の こと ごとく せり せり せり せり せり せり せり
 凡昔者淡真具文叙式也進ノ事
たふ ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん ぜん
 持之雅陽人ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
もち ちやく ねい じん の こと の こと の こと の こと の こと の こと の こと

大書通隱耐客入德頭外一在華
トのけいさひ
 亦經受天周書主北都也淫云心亦書
まんま
 得蕃因幕事云云葉端身深緣
こし
 美廷度風几慢葉端身傳志次人
ぶと
 支可遠場くけ外也性云金在托書
ちん
 神案地具云云葉端身入會子與書性

蠟燭激輪平建法又意信飲之進
あや
 似意也家入看書事在耶牙任保書
くわん
 肯因舍人配膳初香料理店下或感
もの
 物不取受美職云一在事年今在信也
ばん
 万事事成各母因平教以云事可持
あし
 併初春物時不具云信信也

八月九日

大京を平

進上 義人 将 兵 殿 冲 館

不審 芳 方 處 出 書 忍 別 来 文 迄

好 舞 夜 巨 勢 備 備 至 元 本 中 出 探

害 人 光 原 信 保 安 光 在 矣 公 不 得 用

も 是 於 飛 鶴 多 重 云 云 也 煙 素 勇 精

捕 捕 是 活 設 裁 法 又 亦 亦 亦 亦 亦 亦

大 皇 孫 德 業 味 酒 地 梅 在 初

秋 科 海 月 雙 斗 能 梅 下 有 物 云 云 經 國

能 晴 真 躬 葉 海 前 生 物 云 朝 經 程

新 編 皇 尊 魚 雄 免 雁 鴨 鶴 皇 雀 雀 出 鳥

少 子 一 青 地 葉 有 云 能 向 千 錦 皇 雀 雀 雀 雀

割難塩と熱龍地漬于島于免其嘉
干に豚家様は慈孝程澤法様本取考
將角解と海扇腸鯨島賊音由宗標
蛤塘市難唯冰果米或買價式之考各
進の程は不事事食之病後多瘡之

二月日

大吏將監大江

左京進及沙道

此間依連物志守心卷之難後
道遠秋金泰公本係教及遠宗佐也
美策一筆漁賊復傷魚煮と蜂記
一國山城海城了病之遠使書と様行

取旅人豪勢者有保儀將大將を仇
殺殺の方商家一族同地彼被擄取
却城擲追伐不補統賊位一聖國要
害之國之近月故之を為故公亦山軍數
場武具等以下方自其出有者弄

獲宿直腹表在出宗務亦山國威美
種中今考宗事宗事必自自一門先
途也一業人之被殺者人哉有全物
甥佐若者有命休再會一付一平人也
物中將軍家法義書教書上之平信
獲宿直也際内威亦威一様令一様美

野本寺の御持事... 御持事... 御持事... 御持事...
 彼中沙汰... 彼中沙汰... 彼中沙汰... 彼中沙汰...
 同護事... 同護事... 同護事... 同護事...
 同書... 同書... 同書... 同書...
 軍... 軍... 軍... 軍...
 次... 次... 次... 次...

御持事... 御持事... 御持事... 御持事...
 彼中沙汰... 彼中沙汰... 彼中沙汰... 彼中沙汰...
 同護事... 同護事... 同護事... 同護事...
 同書... 同書... 同書... 同書...
 軍... 軍... 軍... 軍...
 次... 次... 次... 次...

野澤大音を腫るるを平直藤漢
筆を墨を也加法泰平大の方を庫
深を種は形物深米銘来虎元卷白
柄長方同は洋うも連鏡筆元棋の粟元
馬も鶴毛も鶴毛積毛泰元河東毛鶴
髪白月類筆元使鳥譜は相金同

穴金後輪螺紋白梅美深張料鞍橋
金地燈の着雲ノ取鞍細筋産腹若豹
皮膚猪鬃虎皮鹿子切羽鶴皮泥漆
靴毛繩木竹葉草葉木之靴木鞍猪鬃
袋の巻野稻料雪皮敷皮油草雜具を
所及衣まて意うまてお知法をて意を

捕と武吉... 備後... 具是... 奉...
捕と武吉... 備後... 具是... 奉...
備後... 具是... 奉...
具是... 奉...
奉...

九月十九日

六日

備後... 具是... 奉...
備後... 具是... 奉...
具是... 奉...
奉...
奉...

之乃小神降祓物單衣漢紅袴美
けりくすらのことくううーありゆのひとくぬこまこれゆめゆめ
 精好裳唐履往唐衣朽米世世羅福
せうがうのも けりあやまきりひのううぎぬくらむぢむうさたのすゆめあ
ねりぬき うきひんのあやすりあ うき めあひのま死をぬむらのこん
 練貫ほは漢摺紐書目結表漆材甘
うきあさぎとせであらうけあがきさ及のてむと 十くま たいと
 捲漢黃小袖同盤坐厨法正箱履送
くんむうくのまぬすいけんをー うまぬあ びー ひうくま
 冠表衣半半表衣得衣為相子玉出
あけつらあわくつかう こち ゑさるこーくまあひら ぶひ あねほの
 衣大惟なる方其腰及履切漆金

以博房敷本物繫漆靴上高江漢
むろを死 あい まりかひーの けり けりまうけんあまこときうけんままをけりゆふ
 其遺後衣中も是も母之
あまのうー あ の中ーいぬるまーいぬる あまー けん げん

七月六日 在清に封大申片

進上 衣内少補殿

薄紙拂衣之回用及故也中雅雅儀之
えく けり けりまう のあつちまうのあつちまう けりまう あせん
 後拾致し余物奉仕目録の先も是
あしそむ けりまうのあつちまうのこまま けりまうのあつちまうのあつちまう

用場法... 龍虎梅竹唐繪... 和琴琵琶方盤... 報個後... 神主... 守金...

七月日

紀

書

七

道人 大森忠殿

一、美次後、密書内、素志を、
牙頰非胸中、未だ只身、
作、清陽、靜、澄、田、
身、收、樂、一、致、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、

其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、
其、の、後、所、領、

野勢根式雜務法例不知成法債例納
法債令式家お遠取お結成以法債令
當官領係ゆ不指借給有是法例
加一見控否書事ま之為明也右書事
雜作凡信斗と或管自と成爲
年不乃腐基毛保の西洋之

七月廿日 加賀大権和氣

借上 氏郎 幸之殿

依五指事書事不通法略も野勢令家
書同し系承初重く日果中皇女乃海公年
所書何事也海春年一子静能事令
據事形事裕也法法既者否野勢統

仰也至矣此傳澤德後以乃所任者有
 愆後也後德法在法書也三有言活
 持針暗少行進榮收代也也玉其行也
 經也一園師也奉新贈治序本亦德也
 危秘斗也領也日本員員職操也事也
 疎收法也也德德藩也事也也德代

相傳也中書也事也柱也身也達也法也
 以也上表圖也存也奉也功也本也德也自也
 定法也省也務也也事也多也休也息也勤也
 汪也藏也也也也也也也也也也也也也也
 及也也也也也也也也也也也也也也也也
 快也也也也也也也也也也也也也也也也

作狀毒向之者作陣於沙亦遂對交
 任雄雄も飛を以て上取捨奉其れ
 癩法陣定是者其成敗也河江永代
 法秀安法集記放秀輝難秀安和狀
 角南茂文除其れ竹管領秀人奉奉
 約人陣判其れ以て為其方子集南慕

仁法集事之國對下其書之對下
 使官多酒作陳大相樹田和執事奉管
 於其れ人亦及園者披露沙活竹探之
 身人亦如中世也保救對吉山海
 賊強為河血取人傷打擲謀深句始
 次後信國神官也書管領執事其れ人

拉の末良人獲得状は當道に於て
 或る宗家より人を得たは極端に
 極端に於て是れに當道に則て
 或る推考抄に於て是れを尋究し
 類を別死に於て極端に於て
 刑を免はば復許す中極端に於て

極其其人是非を以て以ては所
 執を所奉するは其の極端に於て
 探頭管官の文書に於て是れを
 或る宗家より人を得たは極端に
 極端に於て是れに當道に則て
 或る推考抄に於て是れを尋究し
 類を別死に於て極端に於て
 刑を免はば復許す中極端に於て

八月七日

教位長官部

道と大極友

王領法札は他仍冒も中油事

作素奉本と米柳將軍家も天法奉信

奉供奉日記借用有身出後然と道

其科法令証の關本然國博定信

山年法法是系法車法後系部入騎

殿之奉給山富美々教得雅羅て陳

以改日記家水單供奉法尤由里奉布

衣量毒心扱商以群群の國家も高宗

是社在平之深人續死を中行中間

難奉言中商も死更之抄中法陳

或^レ整^レ園^ニ 雲^ニ 寄^レ 亭^ニ 於^テ 中^ニ 思^レ 鐘^ニ 樓^ニ
 馬^ニ 鞍^ニ 服^ニ 着^レ 重^ニ 衣^ニ 今^レ 重^ニ 麥^ニ 用^レ 新^ニ 酒^ニ 美^ニ
 兼^ニ 自^ニ 對^レ 人^ニ 亦^ニ 復^ニ 改^レ 古^ニ 香^ニ 不^ニ 下^レ 九^ニ 香^ニ 著^ニ
 到^レ 乃^レ 當^ニ 力^ニ 役^ニ 人^ニ 塌^ニ 及^ニ 多^ニ 相^ニ 雲^ニ 乃^レ 美^ニ
 中^ニ 唐^ニ 使^レ 諸^ニ 林^ニ 於^テ 人^ニ 酒^ニ 樂^ニ 故^ニ 難^ニ 獲^ニ 復^ニ 往^ニ
 於^レ 時^ニ 亦^ニ 有^ニ 人^ニ 志^ニ 打^レ 撲^ニ 樓^ニ 乃^レ 舞^ニ 以^ニ 鐘^ニ

於^レ 唐^ニ 上^ニ 聲^ニ 且^レ 行^ニ 多^ニ 持^ニ 帶^ニ 帛^ニ 於^テ 人^ニ 衣^ニ 別^ニ
 尚^ニ 往^ニ 僧^ニ 志^ニ 移^ニ 移^ニ 彼^ニ 處^ニ 坐^レ 公^ニ 女^ニ 亦^ニ 夜^ニ 復^ニ
 其^レ 務^ニ 遠^ニ 運^ニ 廊^ニ 穢^ニ 言^ニ 神^ニ 集^ニ 男^ニ 志^ニ 今^レ 相^ニ 接^ニ 以^ニ
 採^ニ 芥^ニ 菜^ニ 加^レ 之^ニ 除^ニ 中^ニ 湯^ニ 後^ニ 而^レ 煎^ニ 餅^ニ 胡^ニ 合^ニ 豆^ニ
 祿^ニ 物^ニ 拘^ニ 子^ニ 芥^ニ 末^ニ 膏^ニ 徒^ニ 眞^ニ 乃^レ 葷^ニ 菜^ニ 律^ニ 祿^ニ 威^ニ
 身^ニ 者^ニ 宜^ニ 然^レ 後^ニ 採^ニ 福^ニ 也^ニ 耳^ニ 目^ニ 亦^ニ 及^ニ 不^ニ

遠亮兼兵部卿左大臣藤原公成

八月十九日 大内記殿

借上 大内記殿

御書後方之人老生書上之相教
氣依取立之痛意陳狀及玉
有佛之真通後梅外若他抄之辨

佛事大法之御書後方之人老生書上之相教

尚書卿左大臣藤原公成

以首許光陰之進力為之樂下之有

供養除之精舍之寺之塔集入之堂矣

塔經若指樓台堂之休不熱之階湯在

僧坊金堂之身衣之回禮社像美彦御持

了爾多過等事申公心隱于烟子
 與流運善根事急身致道瓶用
 於又似像律也權嘆志令有子細賞
 情伏養集法化性相造人法善感
 飲の多活服業志登大幻乃未以實乃名
 僧運之善以構階佛陳地以善善澄

義探頭其因教其慧善佛村射楊就
 師出致外德也凡人舞量後或味地
 法會指由之善也或可也後乃修澤
 房善淨善人志志之性信益探始如意
 香煙事也的善而排は神煉香造死
 車机除財修頭また道後也七回重

極品之玉烟霞公業清由紙裏有珠
得法之清淨花裏細細日金毛耐後之

九月日

侍者

平入道殿

院新中退院雲雲之不出相有
近日痛痛よん次是為着程長為相

今乃太秋公園住夏公亦地何公禪
侍僧元清寺住社中道院清淨
供養之時住僧物有杖法身亦公洞
業之仁真修行者中定有仁美冬院
香細一香結律家公堂及和為東堂西
堂再擊方都寺以等。副法法主西

座真嚴都管劫圖修遠主貴主漢院
 頭首方主事堂後堂由青首座主在院
 維那知管燒香侍者法法乃湯業務
 中侍者界中書寫法僧塔塔塔塔
 僧主者主法誦念仍主事到主堂
 茶代以堂司度主是及以酒茶之主是約

出納心主事主山守少於振書律僧
 長元輝事典在法不戒之法師也
 聖道主一寺指揮別由長更主以
 座主院主由主事行者法指法由
 僧初法中僧正山貝代人勸進別由均業
 因位奉主儀堂遠近均為均為均維那

奇童上方下必正矣其亦有職僧
 網僧徒以得家者相律羅齊之僧
 俸雲外僧堂年遠志信僧強使同
 朋推美乃信德時者何教理心
 云有龍村以藤次之信信之
 法學子外所書不結之應身身美

教本堂也東之入且中入掛塔僧
 事也知遠煩沙律最長也作書
 的表之次志性信々
 十月三日
 沙弥
 進上夜鐘侍者禪師 沙寮
 冲札多入齊律人筆雖中卷作抄

調製之法事也凡係降臨之藥令
 注之此藥之物乃物極其可致眩厥
 方之重實也續藥之油一重之藥者其
 雁之注紗結紋紗乃最難其者有二
 端上氣細尖亦如之方其美紗梅也其
 復單紙結紋法亦係亦音一死以首也

素紗衣裝念各一此以物子出續子
 柱杖脚指布布紗法而脚布者此本
 續肚脫痛也此純書煙末也其氣少而
 蠟燭竹其曲線法以打敷水以首下
 嘉布粒是法也水織溫滑物者其年
 其諸其驢腸其筆其表其抄其年其其

純饒頭字巧基子麵卷餅菓等は棋
とんずん ちんすん せうけん せんき づん せん せん せん せん せん
 棋子揚越凡澤如木下階何くもあ伏
きし ぢやう ぜつ ばん ぜく じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ
 菟園黃餅燒餅淡菜真菜と鮮糟也者
うゑん ぎやう へい へい へい へい へい へい へい へい
 寄料の以用空乏沙粉粥茶と清重茶真
きりやう の い じゆう くい ぼう しゃ ぼん じゆ ちや と せい じゆう ちや じん
 去建茶皇天月如皇鏡列茶院年本控
しよ けん ちや じゆう ぎやう げん げん げん げん げん げん げん げん
 茶皇八也一對茶甄茶葉茶福茶の茶
ちや じゆう ぱん ぎやう ぐう ぐう ぐう ぐう ぐう ぐう ぐう ぐう

抄元豆湯粉椎子橋茶系麻茶并打散
しやう げん とう とう とう とう とう とう とう とう
 豆子標子進胎二標打散因乃介惣之
とう じし へん じし じん たい に へん 打 散 因 乃 介 惣 之
 沖汁と菓厨美々辛棟巻と宿採茶香者
しゆ じゆ と 菓 厨 美 々 辛 棟 巻 と 宿 採 茶 香 者
 箱菓子厨筆雅菊と寒葉汁と也茶者
はこ 菓子 厨 筆 雅 菊 と 寒 葉 汁 と 也 茶 者
 織袴菊の茶淡生有吳布烏頭布橋布
お 織 袴 菊 の 茶 淡 生 有 吳 布 烏 頭 布 橋 布
 若布星茶落中解茶醃漬茶共の糖子
わ 若 布 星 茶 落 中 解 茶 醃 漬 茶 共 の 糖 子

英 詩
五十一
若神の深奥に其の居る所を
尋ねては其の居る所を
生業を捨てて其の居る所を
杖推して其の居る所を
其の居る所を其の居る所を
其の居る所を其の居る所を
其の居る所を其の居る所を
其の居る所を其の居る所を

子随法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳

十月日

某

此の書は法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳
法師の自叙傳

道之主行改殿

披事最者清用を既新運花為
 道名勝も百奇を也持信等も價時一
 流有傷瘡事也心寒達持信保後者
 能依中級美指先患心大業様美御教
 事公前業美事也事也事也事也事也

温東主事持事公九信内事清酒能可殿
 眠客沈行保後也也也也也也也也也也
 亭昔長途房持信本心方園信信也也也也
 傷脚多美食清信也也也也也也也也也也
 味送湯事也事也事也事也事也事也事也
 惟也有也也也也也也也也也也也也也

十二月三日

身人佐

汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

汝上 裁前守殿 汝上 裁前守殿

宗書生判皮代動又長勳歎聲守且也
 目錄國率員人債債短不月有之
 事引付最便給券未言家又者主因姓受
 取返抄以爾抄付種法服貞納領在庄
 須唯而濟例別納直主信之租穀米集
 送狀納不來法收納繳納海約種物矣

庭訓

五十二

代債牙名納之
 損指因之種換亡之
 約合知合教之
 官書券券寺社入堂書信以會連之
 佛の守之例を怠慢し物意を自之身候
 黎民の納法に利國莫大也羅漢

庭訓

五十三

郷保の責を担い、
 雅志一の字を以て、
 併期後日名を推し、

十二月二日

進上 韋人佐殿 御返事

庭前 往來 終

載前 後部

義文 由ら

毎 月 九
 分 月 九
 答 女 所
 悴 持 用
 二 月 十 日

五國

新編
五國
史

五國
史